

五戸総合病院での地域研修を終えて

大阪公立大学医学部附属病院

初期臨床研修医 2年 松原 佳穂

この度、10月に国民健康保険五戸総合病院にて1ヶ月間地域研修をさせていただきました、大阪公立大学医学部附属病院初期臨床研修医の松原 佳穂と申します。1ヶ月間という短い間でしたが、様々な医療経験だけではなく、医師としての将来像を深く考えさせられた、大変有意義な研修となりました。青森で地域研修できたことに、深く感謝しております、大変ありがとうございました。

元々、都会でしか生活したことがなく、初めて青森県に降り立ちました。期待と不安を胸に研修生活が始まりました。消化器内科志望ということもあり、内科研修を希望していたのですが、外科研修と伝えられました。手術ばかりなのではないかと思っていましたが実状は全く異なるものでした。普段、私が研修しているような大学病院のように細分化された専門治療をしているわけではなく、肺炎や尿路感染、心不全での呼吸管理といった内科疾患から褥瘡などの皮膚疾患、緩和治療といった専門にとらわれない幅広い診療をされていまし

た。外科での研修では、外来診療や胃瘻交換、アニサキス除去、ポリペクトミーなど何度も上下部内視鏡検査に携わることができました。また、虫垂切除術やCVポート造設の執刀から、手術は自家麻酔のため、導入から挿管、麻酔管理も経験できました。その他にも、老健や在宅への訪問診療や死体検案にも同行させて頂きました。経験したことのないことも、とにかくやってみよう、という精神のもと、様々な手技や検査、手術などを経験させて頂きました。

この地域研修を通して、「病気ではなく、人を診よ」という言葉を切に痛感しました。緩和医療や慢性期治療をしている患者さん本人だけでなく、その家族も含めて希望を汲み取り、希望に沿った治療を行う。治療後も、患者さんの帰る場所をどうしていくのか、常に考えながら治療計画を組み立てていく大変さを知りました。更に、先生方との交流を通じて、一人の医師としてのライフプランやキャリアについても伺うことができ、良き刺激となりました。

10月の青森は、金色に輝く稲穂は稲刈りを終え、帰阪の頃には山々が赤や黄色に色づいていました。季節の流れを感じながら、美味しい日本酒や五戸の三大肉をはじめ美食を楽しむことができました。

最後になりますが、院長の安藤先生はじめ、外科の後村先生、内科でお世話になった石橋先生、長沖先生および他科の先生方、看護師さん含めコメディカルスタッフの方々、最後に管理班の越後さんには大変お世話になりました。短

い間でしたが、この1ヶ月で得た貴重な経験を忘れることなく、日々邁進して
いきたいと思っております。重ねて御礼申し上げます。本当にありがとうございました。